

# 平成24年度多摩大学経営情報学部セミナー

## 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

多摩大学経営情報学部 教授 金 美德(キム ミドク)

経歴: 1962年兵庫県生まれ。早稲田大学大学院国際経営学修士・国際関係学博士課程修了。(株)三井物産戦略研究所・北東アジア担当を経て、現職。専門は、日韓企業・朝鮮半島・アジア経済。所属学会は、現代韓国朝鮮学会、北東アジア学会。多摩大学経営情報学部国際交流委員長、岡山大学キャンパスアジア事業推進メンバー、寺島文庫塾アジア・ユーラシア研究会代表幹事などを通じてグローバルビジネス人材の育成とネットワーク化に取り組んでいる。

# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

## 目次

### 1. 人材育成像

「アジア・ユーラシアダイナミズム時代を創造する志と地政学的知を身に付けた人材」

### 2. 問題意識

「アジア・ユーラシアダイナミズムという時代背景と多摩企業の潜在性」

### 3. グローバルビジネス系科目

3-1.主要科目

3-2.担当教員

3-3.リレー講座とインターゼミ

3-4.留学

## 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

### 1.人材育成像:アジア・ユーラシアダイナミズム時代を創造する志と地政学的知を身に付けた人材

#### ● 多摩大学の人材育成像

- 「多摩グローバル人材。すなわちローカリティを究めることによってグローバルに目を開く“グローカリティ”という思想をもって、多摩地域の活性化をリードするグローバル人材」
- 「アジア・ユーラシアダイナミズム時代を創造する志と地政学的知を身に付けた人材」(寺島学長は、これこそが多摩大学の日本社会における役割だと述べている)

#### ● グローバルビジネス履修モデルの人材育成像

- 「アジアダイナミズムに真正面から向き合えるプロジェクトマネジメント材」
- アジアGDPが世界に占める割合は、現在の27%から2030年代にも50%を超える。まさしく「アジア経済＝世界経済の時代」となる。
- 日本の貿易相手国の56%がアジア、76%がユーラシアであり、ビジネスが同地域に集中していることから、アジア・ユーラシア地域で稼げる人材が求められている。
- アジア経済圏を取り込むという経済政策的要請とアジア・グローバル人材育成を重視する教育政策的要請とも合致する。2012年キャンパスアジア(日中韓単位交換)、2013年グローバル人材育成(留学促進)。また、「留学生30万人計画」(現在の留学生受け入れ14万人)や、「大学の世界展開力強化事業」(現在の留学生送り出し6万人)などの留学政策も実施されている。

## 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

### 1.人材育成像:アジア・ユーラシアダイナミズム時代を創造する志と地政学的知を身に付けた人材

#### ● 想定している就職先(職務)

- ① 多摩地域の製造業(多摩企業)で、アジアなど新興国市場の販路開拓、技術提携(ハード、ソフト)、生産管理する。
- ② 商社や金融証券・流通物流・観光・飲食などサービス業で、営業、経営企画、国際業務に従事する。
- ③ アジア進出の日系企業や日本進出のアジア系企業も狙い目。
- ④ 地方自治体やNPO・NGOなどで、アジアの企業や観光客の誘致や国際的な課題解決を図る。

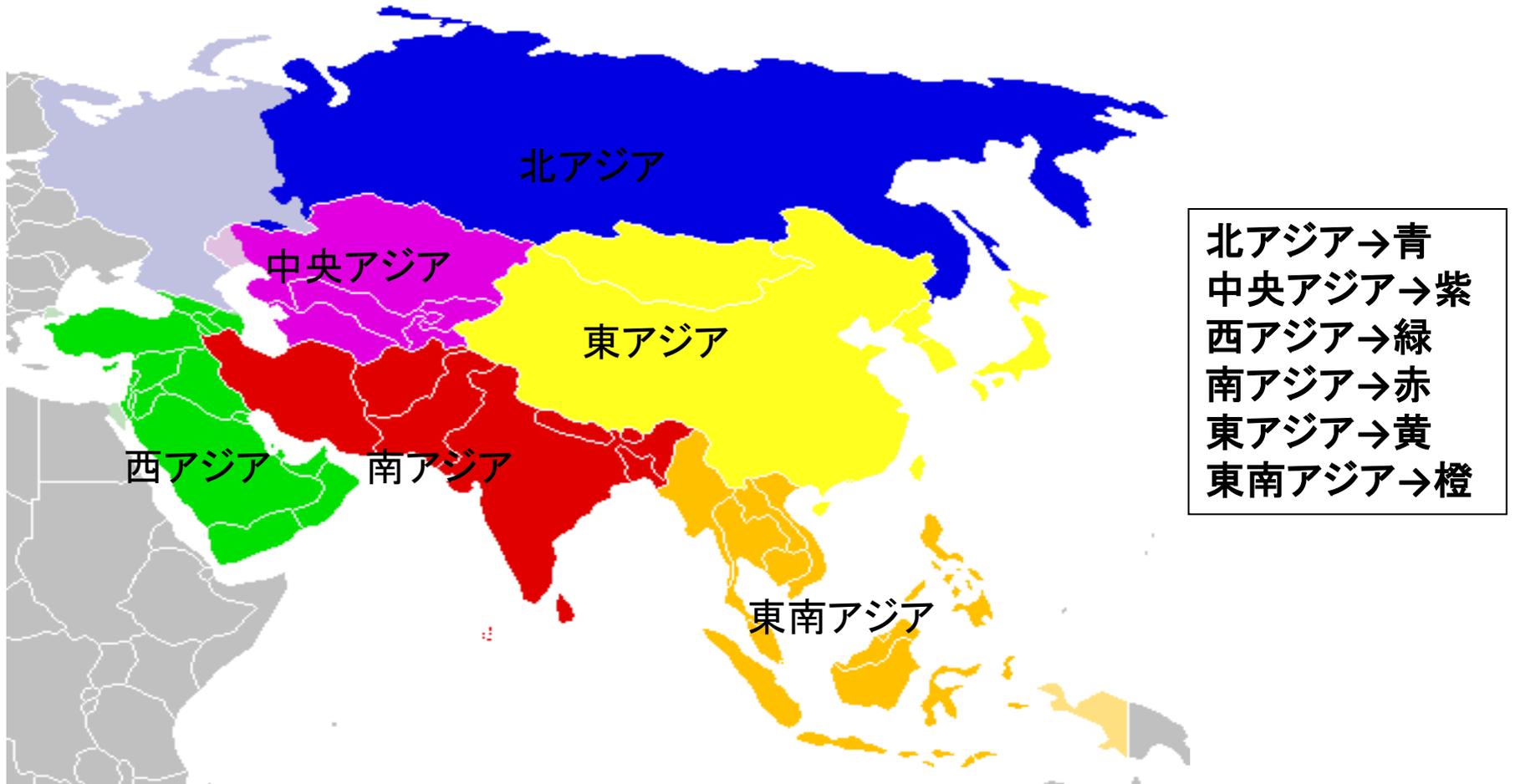
# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

## 2.問題意識:アジア・ユーラシアダイナミズムという時代背景と多摩企業の潜在性

### (アジア・ユーラシアダイナミズムという時代背景)

- 21世紀は、まさしくアジア・ユーラシアダイナミズムの時代である。
- アジアの地理概念は、ユーラシア大陸のヨーロッパ以外の地域であり、ユーラシア大陸の面積の約80%(4457万km<sup>2</sup>)をアジアが占め、人口は世界人口の約60%(40億人)がアジアに住んでいる。
- 国数は、広義では48カ国で北アジア(1カ国)、中央アジア(5カ国)、西アジア(18カ国)、南アジア(8カ国)、東アジア(5カ国)、東南アジア(11カ国)に地域分類される。
- 狭義では、24カ国(東・東南・南アジア)である。
- アジアの中核は、日本・中国・韓国の3カ国であり、この地域の呼称を東アジア、または北東アジアという。
  
- アジア経済は、巨大な市場規模や豊富な天然資源など潜在性が高いことから、世界経済を牽引することは間違いない。
- アジア開発銀行(ADB)のシナリオによると、アジアGDPが世界に占める割合は、現在の27%から2050年には52%になると予測されている。2010年アジアGDP17兆ドルが、2050年にはアジアGDPが174兆ドルに膨らむと試算している。早ければ2030年代にも50%を超えるとの見方もある。
- 英国のトップシンクタンクの国際戦略研究所(IISS)も「戦略概観」において同じような予想をしており、「アジアの世紀」が到来する根拠として、アジア域内の中間層が過去20年で3倍以上に増えたことを指摘している。
- また、アジアの域内経済連携が拡大するのみならず、欧米諸国のアジアシフトによりアジアの域外経済連携も強まる。まさしく「アジア経済＝世界経済の時代」となる。
  
- しかしながらアジアには、安全保障(領土問題・歴史認識・ナショナリズム・テロ・人権)、経済発展(サステイナビリティ)、環境・エネルギー(地球温暖化・大気汚染・省エネ)、社会文化(貧困・感染症・保健・教育・アイデンティティ)などの多くの問題が横たわっている。
  
- このようにアジアは、経済連携が拡大する反面、国際関係が緊張するという大きな政経矛盾を抱えながらも、新たな経済発展段階を迎えようとしている。

# アジアの地理概念



出所:Wikipediaアジアより修正加工。

# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

## 2.問題意識:アジア・ユーラシアダイナミズムという時代背景と 多摩企業の潜在性

### (多摩企業の潜在性)

- ① 38万社の多摩企業(多摩地域13万社、神奈川県25万社)は、1,190万人の市場(広域多摩人口:東京多摩418万人+神奈川県南西部・南東部772万人)に恵まれている。
- ② 「独立自尊」、「先進性」、「イノベーション」のDNA。
  - これらのDNAは、歴史的に継承され、地域に根付いている。
- ③ 独立系、またはベンチャー企業。
- ④ 計測・分析器、半導体・電子デバイス、ロボット、航空部品分野のハイテク企業。
  - 日本有数のハイテク製品出荷額を誇るハイテク産業集積地。
- ⑤ アジア物流に有利な地の利。
  - 川崎港は国際コンテナ戦略港湾としてアジア海路アクセスが、多摩の高速道路は日本海沿岸都市への陸路アクセスが、強化されている。
- ⑥ 地域再生問題や少子高齢化問題を解決する最先端企業のポテンシャル。
  - 多摩ニュータウンは、都市開発において日本の先駆的地域であったが、今日に至っては地域再生問題や少子高齢化問題が日本で最も深刻な地域となっている。しかし、多摩地域がこれらの問題に挑戦的に取り組み、創造的に解決すれば、その経験は日本のみならず、アジアにおいても最先端の成功モデルとなり得る。

# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

## 2.問題意識:アジア・ユーラシアダイナミズムという時代背景と 多摩企業の潜在性

- 多摩地域は、歴史的には江戸幕府の直轄領、すなわち天領(御料所)として江戸幕府を経済的に支えた地域である。このような幕府存立の経済基盤であったというDNAは、今も受け継がれており、多摩地域の経済が東京の経済を支える役割を果たしている。
- また、幕末期の新選組・土方歳三や、明治時代の「五日市憲法」など自由民権運動からも見られるように「独立自尊」「先進性」「イノベーション」のDNAも脈々と受け継がれている。
- たとえば、多摩地域には電気・電子、機械、自動車・航空部品などハイテク企業の工場や開発拠点が集積し、東京の工業を下支えしているが、独立系企業が多く、今や日本有数のハイテク製品出荷額を誇るハイテク産業となっている。今後は、さらに計測・分析器、半導体・電子デバイス、ロボットなどの技術や製品を先鋭化し、日本のハイテク産業をリードしようとしている。
- また、多摩地域の物流ハブ機能が、東京の物流を補完しているが、今後はアジア物流を担う大きな役割を果たそうとしている。多摩地域の物流インフラは、日本海沿岸都市への陸路アクセスが整備されつつあり、国際コンテナ戦略港湾である川崎港ではアジアを中心とした海外への海路アクセスが強化されており、具体的には横田基地を活用して世界的に需要が急拡大しているビジネスジェット事業化の構想もある。
- 一方、多摩地域は多摩ニュータウンに見られるよう都市開発において日本の先駆的地域であったが、今日に至っては地域再生問題や少子高齢化問題が日本で最も深刻な地域となっている。しかし多摩地域がこれらの問題に挑戦的に取り組み、創造的に解決することができたならば、その経験は日本のみならず、アジアにおいても最先端の成功モデルとなり得る。
- したがって多摩地域は最早、東京を支え・補完する地域から、日本の最前線・最先端の地域に変貌しようとしている。まさしくハイテク産業と国際物流ハブ機能は、日本経済の最前線であり、また地域再生・少子高齢化問題を創造的に解決できたならば、未来を映す最先端となる。
- このように多摩地域は、日本に新しい風を吹き込み、パラダイム転換を牽引する地政学的立地にあると言っても過言でない。
- そこで、このような多摩地域の経済活性化を推進する人材、地域連携ネットワークや多摩圏などの地域統合を睨み地域社会を活性化する人材、東京・日本・アジアを見据えて多摩地域のグランドデザインを描く人材が強く求められると考えられる。



# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

## 3.グローバルビジネス系科目

### 3-1.主要科目

#### 1. 主要科目

- グローバルビジネス入門、国際経済、国際経営、多国籍企業、グローバルインベスター、アジア経済、中国論、韓国論
- マクロ経済学、ミクロ経済学、経済統計学、金融論、日本経済、日本経済史、産業社会論、
- 経営学、日本経営史、戦略論、マネジメントデザイン論、マーケティング、ビジネス入門、簿記、管理会計、財務会計、財務管理、国際会計、日本語表現法、余暇マネジメント、スポーツビジネス、消費心理
- 社会経済政策、地域経済と公共政策、近現代史、日本政治史
- 立志論、キャリアデザイン、インターンシップなど。

#### 2. 寺島学長が指導する科目

- 特別講座(寺島学長監修リレー講座)、社会工学研究会(2学部・大学院横断インターゼミ、寺島学長ゼミ)

#### 3. 語学系科目

- 英語、TOEIC、中国語、韓国語

#### 4. 留学

- 短期、長期、海外インターンシップ、アジア視察

# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

## 3.グローバルビジネス系科目

### 3-2.担当教員(責任者:久恒学部長、全教員34名のうち19名)

氏名	職名	担当科目
久恒 啓一	教授	マネジメントデザイン論I・II、社会工学研究会I～VI
飯田 健雄	教授	国際経営入門I・II、多国籍企業I・II、グローバルインベスター論
石川 晴子	准教授	English ExpressionI・II、TOEICI・II
金子 邦博	准教授	初級簿記、中級簿記、管理会計入門、産業社会論入門II
金 美德	教授	現代韓国論I・II、アジア経済I・II、特別講座(リレー講座)I・II、社会工学研究会(インターゼミ)、世界潮流入門
清松 敏雄	准教授	財務管理I・II、財務会計I・II、国際会計論
酒井 麻衣子	准教授	マーケティング・データ分析I・II、社会調査士実習I・II、社会工学研究会
椎木 哲太郎	教授	産業社会論入門I(経済)、マクロ経済学、日本経済論、近現代史、社会経済政策、地域経済と公共政策
下井 直毅	教授	経済統計学、産業社会論入門I、ミクロ経済学、国際経済、金融論
杉田 文章	教授	スポーツII、余暇マネジメントI・II、ビジネス入門、多摩大道入門、
趙 佑鎮	教授	マーケティングマネジメント論、韓国語I・II、立志論III、
常見 耕平	教授	経営基礎I・II、経営学概論I・II、日本経営史I・II、日本経済史I・II、
中村 その子	教授	English ExpressionI・II、TOEICI・II、特別語学研修I、English ShowerI～IV、海外研修I～III
浜田 正幸	准教授	戦略入門、キャリアデザインI・II、消費心理、インターンシップ
春田 尚徳	教授	情報社会論、社会科学入門
巴 特 尔	准教授	中国語I・II、中国ビジネスコミュニケーションI・II、現代中国論I・II、特別講座I・II、世界潮流入門
樋口 裕一	教授	文章伝達入門、日本語表現法I・II
広瀬 一郎	教授	スポーツマーケティング論I・II、立志論I、
村山 貞幸	教授	マーケティング入門

2013年3月時点の専任教員、4月以降は20名体制。

# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

## 3. グローバルビジネス系科目

### 3-3. リレー講座とインターゼミ

- 寺島学長が監修するリレー講座と直接指導する「インターゼミ」では、「グローバルビジネス系科目」、「ビジネスICT系科目」、「地域ビジネス系科目」をより先鋭化させるとともに、シナジーを追求している。
- リレー講座(科目名:特別講座 I・II)は、学生200名(2学年必修)と地域住民300名(有料)の500名を対象に、時代に発信する識者の生の声を聞く公開講座。
- 「世界潮流と日本の進路」を軸に、国際情勢、経済、国内行政、IT、歴史など各分野における精鋭の専門家を講師として招く通年科目(春学期・秋学期)である。
- 2008年4月の開講後5年間で講演数120講演(うち寺島学長が30講演)、受講者数延べ60,030名に上る。
- 学生は、社会人と一緒に緊張した受講環境の中で最先端の講演を聴講できるとあって必死に食らいついている。学生は、毎回気づいた点をレポート作成している。また、学生の最終レポートは、寺島学長が直接、採点している。担当教員10名が指導にあたる。
- インターゼミ(科目名:社会工学研究会)は、学生30名(2学部)と院生5名による全学横断的な課題解決型ゼミである。
- 担当教員は、2学部と大学院の教員10名。
- 2009年4月の開講後4年間にアジアダイナミズム、地域学(多摩学・東北復興)、サービス・エンターテイメント(ディズニーランド)、エネルギー環境などの分野の論文を19本(論文の平均頁数50頁)作成した。
- 東鳴子温泉活性化の論文は宮城県知事に、多摩地域研究の論文は多摩市長に、ディズニーランドの論文はオリエンタルランド社長に手渡した。東北復興の論文は復興構想コンテストにて優秀賞を受賞した。

# リレー講座(科目名:特別講座 I・II)

## 現代世界解析講座 V 2012年 春学期

### 3.11の衝撃、そして世界の構造変化—我々はどこに向かうべきか

昨年2011年という年は冷戦の終焉から20年、9.11同時多発テロから10年という節目の年でした。この時代を的確に総括することが、3.11の衝撃を乗り越え、これから先の10年を展望し行動する基盤となります。

「現代世界解析講座」も5年目を迎えました。外なる世界の構造変化と内なる日本の危機が二重構造にある今、我々が生きている時代を的確にとらえることは、容易ではありません。しかし、時代認識を深めることが、課題解決の一步です。この講座に参加することによって、何かのヒントを感じてもらいたいと思います。




監修  
**寺島 実郎**

多摩大学学長  
(一財)日本総合研究所理事長  
(株)三井物産戦略研究所会長

#### PROFILE

1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程修了後、三井物産入社。米国勤務を経て、99年より三井物産戦略研究所所長、2009年から同会長。また01年日本総合研究所理事長、06年から同会長、10年同理事長。文科省・日中韓大学間交流・連携推進会議委員、宮城県・震災復興会議委員、経産省・資源エネルギー庁総合資源エネルギー調査会基本問題委員会委員などを歴任。94年石橋湛山賞受賞。主著は『世界を知る力』、『世界を知る力 日本創生編』(PHP新書)、『脳力のレッスンI・II・III』(岩波書店)、『21世紀から何を学ぶか(上下巻)』(新潮選書)ほか。

#### 第1回 2012年4月19日(木)

##### 「2011年の総括と2012年への視座」

講師 **寺島 実郎**

多摩大学学長  
(一財)日本総合研究所理事長  
(株)三井物産戦略研究所会長

#### 第2回 2012年4月26日(木)

##### 「国富論から幸福論へ—経済戦略の新潮流—」

講師 **福島 清彦**

立教大学経済学部特任教授、多摩大学経営情報学部非常勤講師

#### PROFILE

1944年兵庫県生まれ。一橋大学経済学部、同大学院修士課程修了後、毎日新聞経済記者を経て、野村総合研究所入社。野村総研ワシントン事務所所長、政策研究部長、同ヨーロッパ社長。この間ブルッキングス研究所所長、ジョンズホプキンス大学教授、天津日中大学院教授などを歴任。「国富論から幸福論へ」(2011年、税務経理協会)など著書多数。

#### 第3回 2012年5月10日(木)

##### 「アラブの春」から一年：中東政治はどう変わったか」

講師 **酒井 啓子**

東京外国語大学大学院教授

#### PROFILE

東京大学教養学科学、英ゲラム大学修士。1982年よりアジア経済研究所研究員。在イラク日本大使館専門員、カイロ・アメリカン大学客員研究員などを経て、2005年より東京外国語大学大学院地域文化研究科教授。主な著書に『イラク 戦争と占領』(2004年)、『イラクは負へる—革命と日本の風景』(2008年、いづれも新潮新書)、『(中東)の考え方』(2010年、講談社新書)、『アラブ大変動』を編む—長官革命のゆくえ』(2011年、東京外国語大学出版会)など多数。専門はイラクを中心とした中東現代政治。

#### 第4回 2012年5月17日(木)

##### 「激動する朝鮮半島と日本」

講師 **金 美德**

多摩大学経営情報学部教授、多摩大学大学院経営情報学研究科教授

#### PROFILE

1962年兵庫県生まれ。早稲田大学大学院国際経営学修士・国際関係学博士課程修了。(株)三井物産戦略研究所を経て、現職。専門は、韓国企業、北朝鮮経済、アジア経済。近著は『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか—新興国ビジネス最新戦略—』(2011年、PHP新書)。寺島文庫東北アジア研究会代表幹事など兼務。

#### 第5回 2012年5月24日(木)

##### 「生命の歴史を踏まえた社会づくり—東日本大震災の体験を生かして—」

講師 **中村 桂子**

JT生命誌研究館館長

#### PROFILE

東京生まれ。1964年東京大学大学院生物化学博士課程修了。理学博士。同年国立予備衛生研究所入所後、三度化成(現・三度化学)生命科学研究所所長、早稲田大学人間科学部教授、東京大学先端科学技術研究センター客員教授、大阪大学大学院教授などを歴任。93年JT生命誌研究館副館長、02年より現職。主著『生命誌の世界』(2000年、日本放送出版協会)、『アムニオン(産生生命)』(2004年、実業社新書)、『自己創出する生命』(2006年ちくま学芸文庫)、『生きものの上陸大戦—絶滅と進化の5億年』(2010年、PHPサイエンス・ワールド新書)など。

#### 第6回 2012年5月31日(木)

##### 「報道の最前線から見た日本の姿—政治経済を展望する—」

講師 **岩田 公雄**

読売テレビ放送報道局特別解説委員

#### PROFILE

1949年北海道生まれ。学習院大学法学部卒業後、読売テレビ入社。グリコ水産事件など国内重要事件を担当。87年NNNマニラ特別特派員、岡マニラ支局開設・初代支局長に就任。89年中国・突尼斯事件では現場で取材に当たる。帰国後読売テレビマニラ支局で3日連続生中継を初めて実現したほか、自衛隊PKO活動でカンボジアやモザンビーク、ルワンダ、東部ゴラン島視察取材。ミャンマーでは自衛隊撤収のアンソニー・チャーさん単独会見するなど海外取材経験はNY同時多発テロ襲撃やアフガン戦況を含め40超。92年から『ウェークアップ1』司会にレギュラー出演。『情報ライブ ミヤネ屋』でも政治外交の解説を担当。著書に『テレビで見えなかったニュースの裏面』(2008年、学習院出版)。21世紀(長期読者)編集委員兼務。

#### 第7回 2012年6月7日(木)

##### 「17世紀オランダ論から見えてきたもの」

講師 **寺島 実郎**

多摩大学学長  
(一財)日本総合研究所理事長  
(株)三井物産戦略研究所会長

#### 第8回 2012年6月14日(木)

##### 「日本経済の発展と、企業家への期待」

講師 **長谷川 栄一**

東京大学公共政策大学院教授、東シオンコンサルティング・シニアアドバイザー(株)オー・タブルー顧問

#### PROFILE

東京大学法学部卒業。米国タフツ大学フェレッチャー法律外交大学院修士位取得。通商産業省に入省後、ジェトロニューヨークセンター産調課長、東京都庁商工課課長、内閣広報部長、中小企業庁長官を歴任。退官後、現在、東京大学公共政策大学院教授、ポスドク・コンサルティング・グループシニア・アドバイザー、(株)オー・タブルー顧問など。

#### 第9回 2012年6月21日(木)

##### 「スポーツマンシップ教育—人災に対応する「人材育成」—」

講師 **広瀬 一郎**

多摩大学経営情報学部教授、スポーツ総合研究所所長  
スポーツマンシップ育成会(NPO)専任代表

#### PROFILE

1955年静岡県三島市生まれ。東京大学法学部卒業。1980年電通入社。1994～96年、日本サッカー協会へ出身し、W杯日本代表に尽力。1999年、Jリーグ経営諮問委員会委員就任(任期2年×2期)、2000年、スポーツ・ナビゲーション設立。2002年、独立行政法人経済産業研究所(RIETI)上席研究員就任。2010年より現職。近著は『サッカービジネスの基礎知識』(実務出版、2012年)

#### 第10回 2012年6月28日(木)

##### 「大震災・原発事故とこれからのエネルギー政策」

講師 **十市 勉**

日本エネルギー経済研究所 顧問、多摩大学経営情報学部客員教授

#### PROFILE

1945年生まれ。1973年に東京大学理学系大学院・地球物理コース博士課程を修了後、(財)日本エネルギー経済研究所に入所。理学博士。1983～85年に米国マサチューセッツ工科大学(MIT)エネルギー研究所の客員研究員。1984年に現職。総合研究所所長、2006年に専務理事・首席研究員、2011年8月に顧問に就任。専門分野は、エネルギーおよび地球環境問題。

#### 第11回 2012年7月5日(木)

##### 「激動期のリーダーシップのあり方」

講師 **北川 正恭**

早稲田大学大学院公共経営学研究科 教授

#### PROFILE

三重県議会議員(3期)、衆議院議員(4期)、三重県知事(2期)、ゼロベース改革を評価し、改革を進める「事業評価システム」や情報公開を積極的に進める。達成目標、手段、財源を住民に約束する「マニフェスト」提言。2期務め、2003年退任。現在、『新しい日本をつくる国民会議』(21世紀福語)代表。地域主催戦略会議議長。

#### 第12回 2012年7月12日(木)

##### 「21世紀、日本の進路」

講師 **寺島 実郎**

多摩大学学長  
(一財)日本総合研究所理事長  
(株)三井物産戦略研究所会長

# リレー講座(科目名:特別講座 I・II)

現代世界解析講座 V 2012年 秋学期

## 3.11の衝撃、そして世界の構造変化—我々はどこに向かうべきか

昨年2011年という年は冷戦の終焉から20年、9.11同時多発テロから10年という節目の年でした。

この時代を的確に捉えることが、3.11の衝撃を乗り越え、これから先の10年を展望し行動する基盤となります。

「現代世界解析講座」も5年目を迎えました。

外なる世界の構造変化と内なる日本の危機が二重構造にある今、我々が生きている時代を的確にとらえることは、容易ではありません。しかし、時代認識を深めることが、課題解決の一歩です。この講座に参加することによって、何かのヒントを感じてもらいたいと思います。

寺島 実郎



監修

寺島 実郎

多摩大学学長  
(一財)日本総合研究所理事長  
(株)三井物産戦略研究所会長

### PROFILE

1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程修了後、三井物産入社。米国勤務を経て、99年より三井物産戦略研究所所長、2009年から同会長。また01年日本総合研究所理事長、06年から同会長、10年同理事長。文科省・日中韓大学間交流・連携推進会議委員、宮城県・震災復興会議委員、経産省・資源エネルギー庁総合資源エネルギー調査会基本問題委員会委員などを歴任。94年石橋湛山賞受賞。主著は『世界を知る力』、『世界を知る力 日本創生編』(PHP新書)、『脳力のレッスンI・II・III』(岩波書店)、『21世紀から何を学ぶか(上下巻)』(新潮選書)ほか。

第1回 2012年10月4日(木)

### 「2012年夏の総括—世界の構造変化」

講師 寺島 実郎

多摩大学学長  
(一財)日本総合研究所理事長  
(株)三井物産戦略研究所会長

第2回 2012年10月11日(木)

### 「少子高齢社会をどう支えるか」

講師 坂東 真理子

昭和女子大学学長



### PROFILE

高山県生まれ。1969年東京大学卒業。総務省入省。青少年対策本部、婦人問題担当。老人対策室、内閣府大臣官房参事官、統計経済統計課長などを経て男女共同参画局長。1995年～1998年 埼玉県副知事。1998年～2000年 プリスベン総務長。2001年～2003年 内閣府男女共同参画局長。2004年4月～ 昭和女子大学大学院教授。女性文化研究所長。現在に至る。2005年～ 昭和女子大学副学長。2007年3月まで、2007年4月～ 昭和女子大学学長 職に就く。『図説 世界の日本のほんから』、『新 女性の時代』、『東洋のありよう—まんなか』、『未知事日記』、『女性の品格』、『星の品格』、『女性の幸福(仕事編)』、『日本の女性政策』、『賢い女性力』、『夢を突進する7つの力』、『日本人の美質』など著書多数。

第3回 2012年10月18日(木)

### 「Making Drama—誰も予測できない韓国大統領選挙を予測する」

講師 徐 勝

立命館大学特任教授



### PROFILE

1945年京都市の在日朝鮮人。東京教育大学、ソウル大学大学院に学ぶ。立命館大学法学部特任教授(比較人権法、現代韓国の法と政治)。同リサーチセンター顧問。2011年『実力の力』第1回人権賞受賞。東アジアの重大な人権侵害とその原因、および和解と平和を研究。著書:『東アジアの国家暴力と人権-平和』(かもがわ出版、2011年)。

第4回 2012年10月25日(木)

### 「社会デザイン」を構想する—自立互援(じつごえん)の思想—

講師 望月 照彦

多摩大学経営情報学部教授、多摩大学総合研究所所長



### PROFILE

霞がかり時は、童話創作、コピーライターで糧口を渡す。またその対象とも思えるベンチャービジネスを数社起業した。その数少ない経験が評価され、恩師、野田一夫、中村秀一郎両先生に導かれ多摩大学で教鞭を執る。地域創造、まちづくりで全国を奔走し、いままた新たに「創造社会」の地平を拓く「社会デザイン学」への構想に邁進している。

第5回 2012年11月1日(木)

### 「日本サッカーの現在と未来」

講師 中西 哲生

スポーツジャーナリスト



### PROFILE

1969年、愛知県生まれ。同志社大学経済学部卒業。1992年、名古屋グランパス(スイエ)に入団。1997年に川崎フロンターレに移籍し、1999年にはキャプテンとして、チームのJ2優勝・J1昇格に貢献する。現役引退後は、スポーツジャーナリストとして活動を開始し、テレビ・ラジオでコメンテーターを務めるほか、全国でサッカー教室を開催する。2006年、(公財)日本サッカー協会特任理事に就任。

第6回 2012年11月8日(木)

### 「歴史観の中での現代」

講師 寺島 実郎

多摩大学学長  
(一財)日本総合研究所理事長  
(株)三井物産戦略研究所会長

第7回 2012年11月15日(木)

### 「米大統領選挙結果と今後の行方」

講師 渡部 恒雄

東京財団 ディレクター (政策研究)・上席研究員



### PROFILE

1963年福島県出身。東北大学法学部卒。2005年ニューズウィーク・フォー・ソーシャルリサーチで政治学修士課程修了。同年、ワシントンのCSIS 戦略国際問題研究所に入所。2003年に上級研究員。三井物産戦略研究所主任研究員を経て、2009年4月より現職。著書に『二〇二五年米中対決: 歴史が教える米中関係の真実』(PHP研究所 2011年)、『今のアメリカがわかる本』(三笠書房 2007年)。

第8回 2012年11月22日(木)

### 「中国経済の現状と課題」

講師 関 志雄

株式会社 野村資本市場研究所 シニアフェロー



### PROFILE

1957年青森生まれ。1979年香港中文大学卒。1986年東京大学大学院博士課程修了。経済学博士。海上上海銀行、野村総合研究所、経済産業研究所を経て、2004年4月より現職。著書に『共利共栄の中国経済』、『中国経済革命最終章』、『中国を動かす経済学者たち』、『チャイナ・アズ・ナンバワン』など、多数。

第9回 2012年11月29日(木)

### 「人間の安全保障の確立と国際医療貢献-病院船構想」

講師 浅野 茂隆



### PROFILE

早稲田大学健康医療、先端科学総合研究機構 機構長  
早稲田大学研究推進地域研究機構 長  
東京大学公共政策大学院 長  
先端医療工学研究所 所長  
1943年生。東京大学医学部卒、医学博士。主な職歴: Walter & Eliza Hall Institute of Medical Sciences (メルボルン) 研究員、中国科学会客員、現職:早稲田大学特任教授、東京大学名誉教授、中国科学会客員、北京医学客員教授、神戸大学客員教授。専門領域: 血液内科、腎臓学、細胞・遺伝子治療学、生命倫理学。業績: ハイテク医薬品ヒト-G-CSF開発、公的ヒト骨髄・幹細胞バンク設立、など。

第10回 2012年12月6日(木)

### 「電力システム改革の現状とスマートグリッドが切り拓くICTの最前線」

講師 村上 憲郎

前グループ日本人会長、村上憲郎事務所代表



### PROFILE

1947年大分県生まれ。京都大学工学部卒業。外資系 ICT 企業の日本人社長を歴任。2003年4月 Google Inc. 副社長兼 Google Japan 代表取締役社長、2009年1月名誉会長に就任。2011年1月、村上憲郎事務所開設。主著に『村上式シンプル英語勉強法』、『村上式シンプル仕事術』(ダイヤモンド社)、『一生食べられる働き方』(PHP新書)。共著に『3・11後 日本経済はこうなる』(朝日新聞)、『スマート日本宣言 経済復興のためのエネルギー政策』(アスキー新書)。

第11回 2012年12月13日(木)

### 「メイド・イン・ジャパン 21世紀の選択肢」

講師 財部 誠一

経済ジャーナリスト



### PROFILE

慶應義塾大学法学部卒業後、野村證券に入社。同社退社後、3年間の出版社勤務を経てフリーランスジャーナリストに。金融、経済誌に多く寄稿し、気鋭のジャーナリストとして期待される。BS 日テレ「財部ビジネス研究所」(日曜日9:00-)、テレビ朝日「報道ステーション」など TV やラジオでも広く活躍中。また、政策シンクタンク「ハーバード・ロード・ジャパン」を主宰し、「財部朝野論」などの各種の政策提言を行っている。

第12回 2013年1月10日(木)

### 「2013年への展望—日本の進路」

講師 寺島 実郎

多摩大学学長  
(一財)日本総合研究所理事長  
(株)三井物産戦略研究所会長

# インターゼミ(科目名:社会工学研究会)の2012年度テーマと論文

## ＜2012年度研究テーマ＞

### 1. アジアダイナミズム班

「日中韓の領土問題～尖閣諸島と竹島～」

### 2. 地域学・震災班

「東北を活性化するコミュニティ形成～福島県平田村を事例にして～」

### 3. 地域学・多摩学班

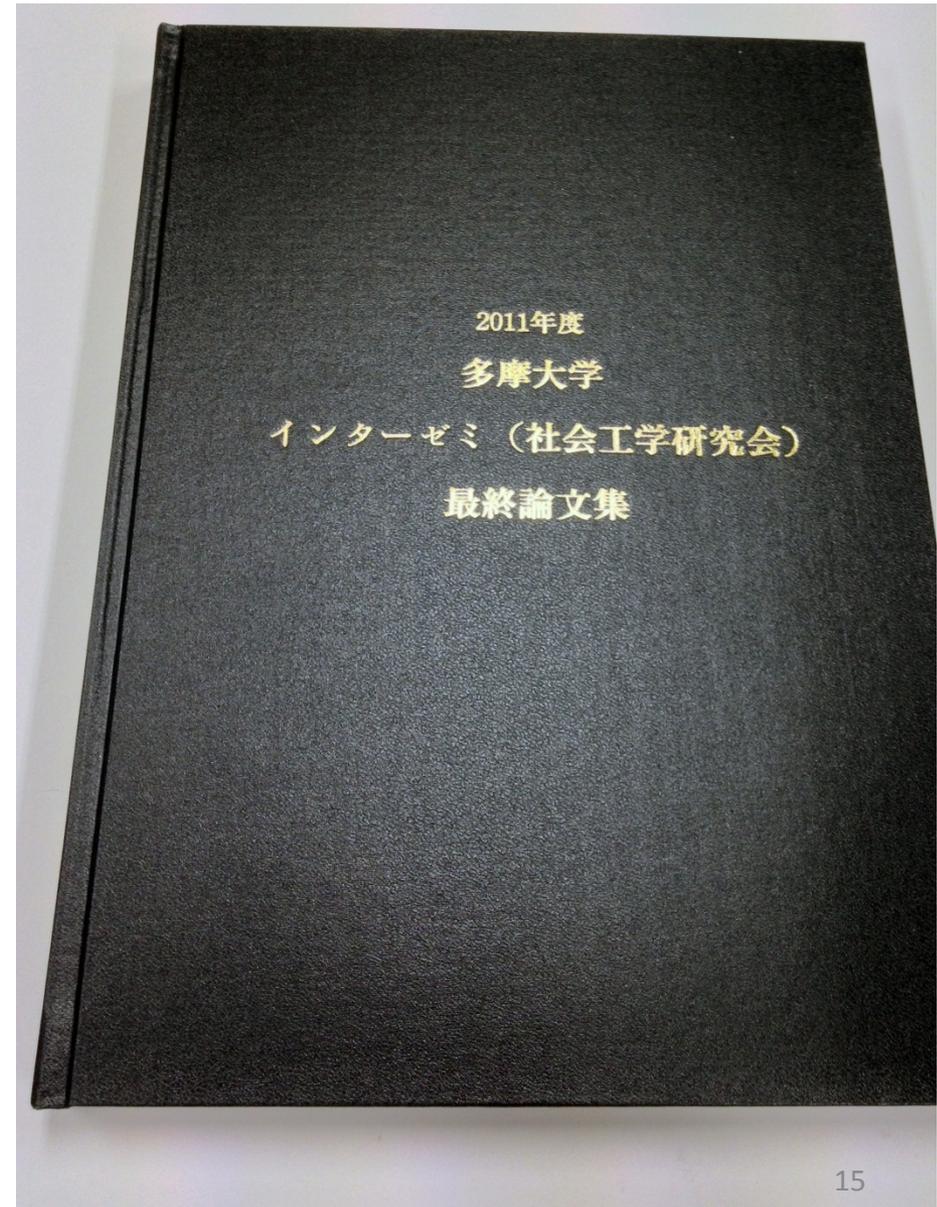
「浦賀を中心に見た江戸幕府の対外貿易と海防」

### 4. 環境・エネルギー班

「地域特性を生かした エネルギー自立化モデルの可能性～原子力依存から参画型再生可能エネルギーへのシフト～」

### 5. サービス・エンターテインメント班

「ディズニー海外展開戦略に関する考察～各国文化に適応するローカライズとは～」





多摩大学インターゼミ合宿



# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

## 3. グローバルビジネス系科目

### 3-4. 留学－派遣先－

#### 留学派遣先25カ所

協定機関13機関（経営情報学部6機関、グローバルスタディーズ学部7機関）

提携機関12機関（経営情報学部3機関、グローバルスタディーズ学部9機関）

#### 【アメリカ】

インディアナ大学

インディアナポリス大学

ハワイ大学マノア校

UCLAアメリカンランゲージセンター

バスタースタ州立大学

レイクランド大学

オレゴン大学

#### 【イングランド】

ブリントン英語学校

#### 【オーストラリア】

モナッシュ大学ランゲージセンター

ロイヤルメルボルン工科大学ランゲージセンター

サンパシフィックカレッジ

ハンティングデール小学校

#### 【カナダ】

アルゴマ大学

ウィニペグ大学

#### 【韓国】

漢陽大学

アジアサイエンスパーク協会

#### 【中国】

天津財形大学

新疆財形大学

#### 【ドイツ】

ブレーメン州立経済工科大学

#### 【ニュージーランド】

クライストチャーチ工科大学

シェフィールドスクールオブイングリッシュ

#### 【フランス】

ESCIN

ESIEA

# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

## 3. グローバルビジネス系科目

### 3-4. 留学－実績－

2012年度留学生受け入れ・送り出し数	経営情報学部	グローバルスタディーズ学部
正規留学生在籍者数	8	春学期 7 秋学期 5
交換留学受け入れ留学生数	9	秋学期 5
短期留学プログラム受け入れ		14
留学生受け入れ合計	17	31
交換留学送り出し数	0	春+秋学期 2
長期留学プログラム受講生数	2	1
短期留学プログラム受講生数	11	春学期 25 秋学期 22
海外インターンシップ受講生数	0	3
アジアダイナミズム視察研修	29	2
留学生送り出し合計	42	55

# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」

## 3. グローバルビジネス系科目

### 3-4. 留学ーアジア視察ー

- 「2012年度アジアダイナミズム研修～台湾編～」
  - 参加者37名(学生 31名と教職員6名)
  - 訪問先:台湾三井物産(幹部社員がグローバル人材像講演)、新竹サイエンスパーク(台湾最先端ハイテク工業団地)、中華大学など。
- 「2011年度アジアダイナミズム研修～韓国編～」
  - 参加者23名(学生18名と教職員5名)
  - 訪問先:韓国三井物産(幹部社員がグローバル人材像講演)、国会議事堂(国会議員が韓国社会について講演)、北朝鮮との国境線視察など。



# 「多摩グローバル科学技術フォーラム～日韓ビジネスマッチング～」(2013年2月多摩大学にて開催)

- 韓国企業(9社11名)、日本企業(10社16名)、多摩大学の教職員と学生46名が参加した。

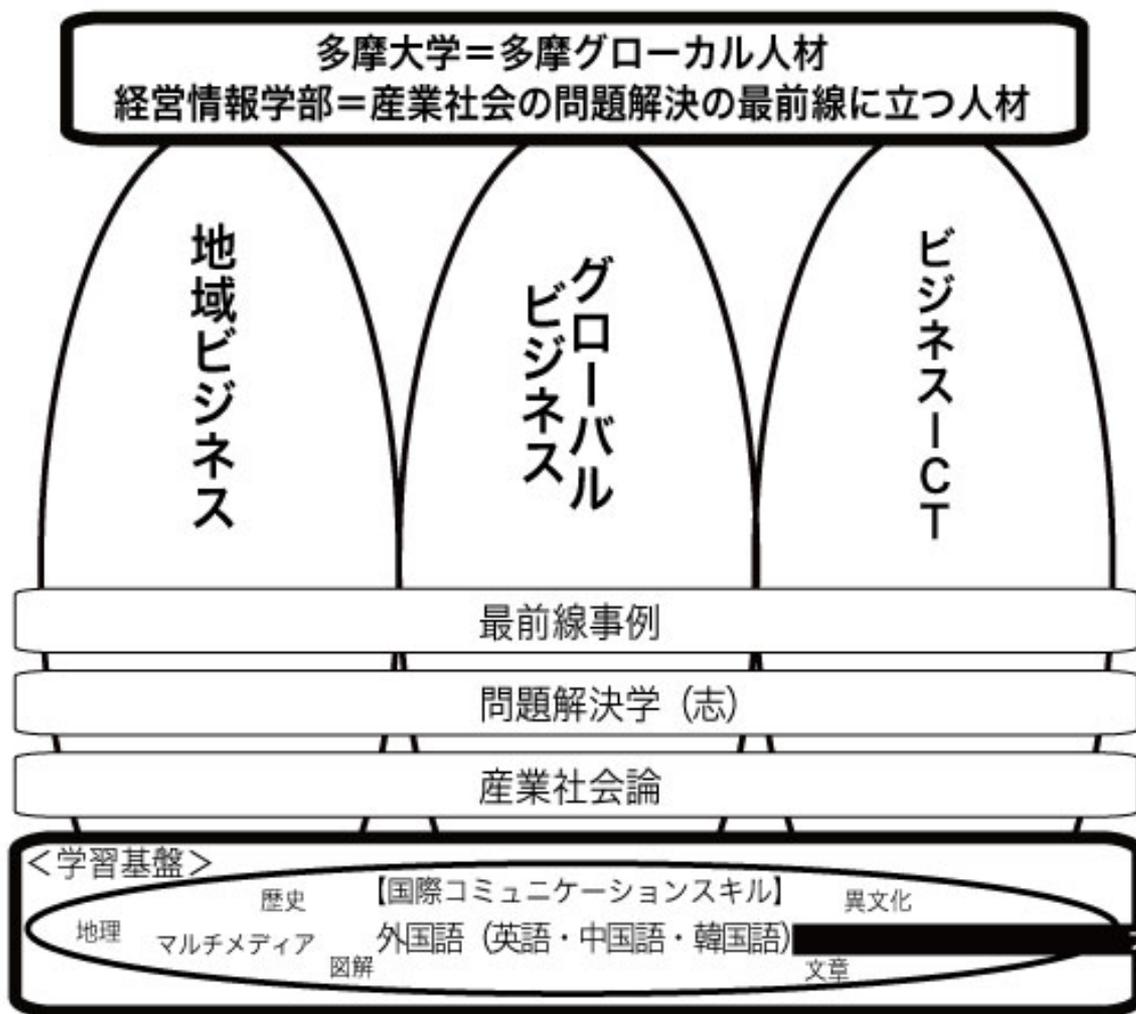






# 多摩グローバル人材育成プログラム（案）

	地域ビジネス	グローバルビジネス	ビジネスICT
英語	英語 × 地域	英語 × ビジネス	英語 × ICT
韓国語	韓国語 × 地域	韓国語 × ビジネス	韓国語 × ICT
中国語	中国語 × 地域	中国語 × ビジネス	中国語 × ICT



# 「グローバルビジネス履修モデルの解説」 最後のご挨拶

- 今後とも「学生たちの成長と就職・人生を最優先」に考えまして、教職員一丸となって教育にあたって参りますので、何卒、ご理解・ご協力と叱咤激励の程、宜しくお願い申し上げます。